

大熊町を 端から端まで ● 知りつくそう！

● 第6回 小学校



大野小PTA会長
佐 藤 博 信

「心に夢を」

その後昭和二十九年十一月一日町村合併で、大熊町立大野小学校・大熊町立熊町小学校に改称し現在に至っている。その間大野小学校は、所在地が変わっているし、両校とも新校舎となっている。

それ以前大野小学校は、明治六年六月・熊町小学校は明治六年三月にそれぞれ創立され、今年は両校とも百三十年目を迎える、盛大な記念式典が行われた。

田中さんは、レーザー光線を使ってタンパク質を壊さずに測定する技術の開発に成功しました。この技術は、抗ガン剤など新しい薬の開発に大きく貢献しているとのことです。

そこで、お一人がこの道に夢を持つようになつたきっかけは、皆さんと同じ学年生でのことだということです。小柴さんは、子どもの時に病気で入院していた折りに、数学の先生が「これでも読んで

ふるさと 再発見

公共施設を訪ねて

小学校の沿革

新しい小学校の教育は、昭和二十二年四月一日から「国民学校」を「小学校」と改称し、大野村立大野小学校・熊町村立熊町小学校として発足した。

その後昭和二十九年十一月一日町村合併で、大熊町立大野小学校・大熊町立熊町小学校に改称し現在に至っている。その間大野小学校は、所在地が変わっているし、両校とも新校舎となっている。

宇宙の彼方から地球に降りそいでいる物質の元の元である素粒子ニュートリノを地下千メートルに建設したカミオカンデという測定装置を使い、世界で初めて捕らえることに成功し、天体物理学の新たな学問分野を築きました。そして、田中さんは、レーザー光線を使ってタンパク質を壊さずに測定する技術の開発に成功しました。この技術は、抗ガン剤など新しい薬の開発に大きく貢献しているとのことです。

小柴さんは、ご自身の書かれた本の中で「自分のこれから一生の間に、これをやりたい、やり遂げたい、あるいはこれを理解したい、なんかそういう目標になるタマゴを二つか四つ、いつも大事に持つ」とあります。(心に夢のタマゴを持つ) す。田中さんの場合は、小学校の担任の先生が理科の授業で見せてくれた実験でした。それぞれの「夢のタマゴ」はこのようにして生まれました。小柴さんは、ご自身の書かれた本の中で「自分のこれから一生の間に、これをやりたい、やり遂げたい、あるいはこれを理解したい、なんかそういう目標になるタマゴを二つばかりましょう。

記念誌「おおの」より抜粋

大野小 ぼくの夢 私の夢 宝物

一年一組 かつこいふじんけいかなになりたい

二組 画家になつて先生を描きたい

三組 おにいちゃんといつしまになしやをやりたい

二年一組 大工さんになつてたくさんの人の家をつくる

二組 おじいちゃんと買ってもらつたランドセルが宝物

三組 はかせになつてすごいものを作りたい

三年一組 あしかけさかあがりがとくいです

四年一組 ぼくの宝物は家族の命です

二組 将来の夢は大きな会社の社長になります

五年一組 童話作家になつて、私の本を読んでもらいたい

二組 私の宝物はおばあちゃんの手紙です

六年一組 考古学を学んで立派な考古学者になりたい

二組 動物が好きなので獣医になりたい

常法寺花菜子
金濱裕佳
菅野涼太
吉田真綾
泉田彩花
前田知佳
岡部憲都
藤森豪
長根護

浅野真理
三瓶美樹

ごらん」といつて贈った本、「物理学はいかに創られたか」が、物理に興味を持つ一番最初の経験だと述べています。

さあ大野小学校の皆さん、この創立百三十周年記念の年で見せてくれた幸運をお互いに喜びあいながら、これをきっかけとして心の中に夢のタマゴを持ち、そして、将来この夢のタマゴを鳥にかえし大きく育てられるよう、自分の力を信じて、明日から勉強に運動に、そして遊びにがんばりましょう。

ていなさい」と心の中に夢のタマゴを持つことを勧めています。(心に夢のタマゴを持つ)

一二〇年の伝統を受け継いで



熊小PTA会長
志賀秀陽

創立以来、明治、大正、昭和、平成と、長きにわたって時代の進展に尽力された諸先輩方と四五八名の卒業生が残された輝かしい実績を受け継いでいます。

私は卒業生の一人として、このような形で一二〇年という節目に関わることができることを大変うれしく思うと共に、その責任の重さも痛感しているところです。

二十一世紀というグローバルな社会にふさわしく、教育、スポーツ、自然など、豊かで恵まれた環境の中で、熊町小の子供たちは、生き生きと学校生活を過ごしています。この姿を後世に引き継ぐことが私たちに課せられた責務ではないでしょうか。

さらに、子供たちは、人と

人、人と自然、人と社会など多様な関わりにおける様々な体験を通して、守らなくてはならないルールや自己を認め尊重する態度、自分を支えてくれる人々の温かさ等を学んでいくものです。これからは生涯学習の視点からも、子供も大人も学校だけでなく、家庭や地域社会の中でも生涯にわたって共に学び、成長していくけるような環境づくり、人づくり、地域づくりが重要です。



昭和53年度熊小卒業
猪熊広美

一二〇年記念に 寄せて

私は卒業生の一人として、このような形で一二〇年といふ節目に関わることができることを大変うれしく思うと共に、その責任の重さも痛感しているところです。

「ろろんろろんと鳴る海は……」懐かしい校歌が、潮風と緑の香りが……。白い校舎と芝生の校庭、築山や松林が目に浮かんできました。熊小の六年間には、本当に思い出がたくさん詰め込まれています。高台にあつた学校は、

私の家からは少し遠いところにありましたので、三年生までは徒歩で五〇分の一時間、四年生からは自転車で通いました。春は満開の桜、夏は松林でアスレチック、秋は紅葉、冬は雪合戦と一年の流れが凝縮されているようでした。音楽が好きでしたので、ピアノを弾いたり合奏したりと、自然に囲まれた環境の中で、色々な音楽との出会いもありました。すばらしい先生方に恵まれ、遠足や運動会、水泳大会、ソフトボール、学習発表会、児童会活動、緑の少年団などいろいろな活動が懐かしく思い出されます。

私は現在「サー・ピース・フォーリ・ピース」というNPOのボランティア活動として、東京都の渋谷区や杉並区を中心に清掃活動などをしているのですが、小学校当時の緑化活動のように、学校を通した、より公的な活動を行うことの重要性をとても感じています。

託された大切なとき、「人のために生きる」実践をとおして、心の財産として残っていくのではなくでしょうか。今後もますます発展され、活動されるようにと願うばかりです。

卒業して二十五年、あつといふ間に月日がたちました。あ

熊町小みどりつの声

一年一組

おとうとがびよぎになりやすいのかぶさんになつてなおしたいです。

伊賀 愛香

二組

じぶんでそばをつくるそばやさんになりたい

半谷 隆誠

三組

ぼくはクレーン車のうんてんしゅになりたい

五十嵐達也

四年一組

ぼくはラーメンが好きだからラーメンやさんになります

小林 優介

二組

虫はかせになつて虫のけんきゅうをしたい

市村 光

三年一組

ぼくは漁師になつて日本中の魚をつかまえたいです

遠藤 雄亮

二組

お花を見ていると元気になるのでお花屋さんになりたい

小野上綾乃

四年一組

わたしは声優になりたいです そしてアニメを楽しむことです

山下 美咲

二組

ぼくは料理を作るのが好きだから、料理人になりたいです

金澤 健太

五年一組

ぼくの夢は大工です おじいちゃんやお父さんのあとをつぎたい

新長 一茂

二組

わたしの得意なことは、三才の時から大好きだったピアノです

佐伯仁奈子

六年一組

お年寄りを助ける介護士になりたい

横田 佳純

二組

音楽の楽しさを世界中に伝える有名なピアニストになりたい

木村 真穂

記念誌「みどりつ」より抜粋

の時走つて叱られた廊下、寝ころんで遊んだ芝生の校庭、アスレチックも築山の大滑り台も楽しかったな……。
「……そうだ 仲良く 肩組んで 進もう 正しく た
くましく」